



秋の草木染

Q. 秋の野草で布を染めたいのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A. 簡単な器具と2、3の媒染剤で染められます。身の回りの手に入れやすい材料から始めたらよいでしょう。

《ポイント》

実を結ぶ頃の草木から色を採ると、一番よく染まります。一回染めただけでは濃い色にならないので、同じ手順を繰り返し、気に入った色になるまで染重ねをすることが大切です。

1. 器具

- ・ホーロー引きの容器
- ・ポリのたらい(洗面器でもよい)
- ・ポリバケツ
- ・染める布(絹物)

2. 媒染剤

- ・鉄(塩化第二鉄、硫酸鉄)、石灰と併用することが多い。
- ・硫酸銅(劇物)
- ・明礬
- ・炭酸カリウム(灰汁のかわり)
- ・酸(クエン酸、氷酢酸)
- ・錫(塩化第一錫)

3. 手順

‘ススキ’を材料にして染めてみましょう。穂が咲き始めたころ刈り取って使います。

- ① 布 200g に、ススキ 200g の割合で染めます。植物は多めにします。
- ② ホーローの容器に入れ、ゆったり浸かるくらいの水を入れ煮立てます。沸騰してからさらに 20 分間熱煎します。これが染汁です。
- ③ 染汁をタライにあけます。
- ④ 布はあらかじめぬるま湯につけておきます。
- ⑤ 布を軽く絞ってタライの中ですばやく動かしながら染めます。(ゴム手袋をして、そばに水を用意しておき、ときどき手を冷やしてください)
- ⑥ 時間は 20 分ほどです。
- ⑦ 布 200g に対して 1.5% の分量(3g) をバケツ半分くらいの水に溶かして、その中に漬けます。
- ⑧ 媒染の時間は 20 分くらいです。
- ⑨ 染め上がり…黄色(明礬)、裏葉色(硫酸銅)、緑ねずみ色(硫酸鉄)
- ⑩十分に媒染した布は、水洗いし軽く脱水して、生乾きのうちにアイロンをかけます。
- ⑪ 応用…同じような方法で、クズ、ハギ、ヨメナ、ヨモギ、ドングリなどが染められます。ヨモギは硫酸鉄の媒染で緑がかったねずみ色に染まりますが、それをもう一度、うすい硫酸銅の媒染液に入れるとグリーンになります。
(大場キミ、草木染野帖、求龍堂、1984. によります。)



チューリップの花が咲かなかった！？

Q. 去年、チューリップの球根を鉢植えしましたが、花が咲きませんでした。どうしてですか。

A. 花が咲かなかった原因は、水の不足か暖かい場所に置いたためです。

《ポイント》

チューリップは夏の間には花をつくり、秋に植えるころには幼いつぼみが球根の中に納まっています。このつぼみを大切にしないと花が咲きません。

1. 水の不足

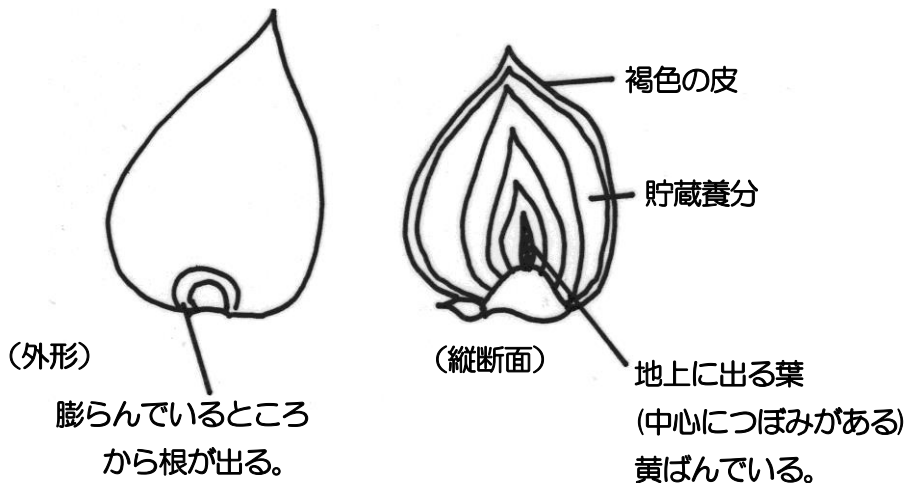
鉢植えにすると、芽が伸びるまではつい水やりを忘れがちになるものですが、芽が出なくても冬の間には土の中では根が伸びていますから、水やりを忘れないでください。冬の間には乾かすと球根の中のつぼみが干からびてしまいます。ひどい場合は、春になって葉や莖が伸びるときに、つぼみは白く乾いて死んだまま出てきます。あまりひどくない場合でも、花びらの薄い貧弱な花しか咲きません。

2. 暖かい場所に置いたため

チューリップの鉢植えを暖かい室内に入れておくと花が咲きません。チューリップは十分な寒さに当たらないと花芽が育たない性質だからです。

12月に花屋で売られているチューリップの切り花も、夏に冷蔵した球根を温室に植えて咲かせているのです。

秋に鉢植えしたら、1月末くらいまでは戸外において、寒さに合わせる必要があります。寒さがきつい場所では、鉢ごと土の中に埋め込んでおけば、寒さで鉢が凍って割れる心配がありません。乾燥もいづらか防げます。2月ごろ掘り上げて、日のよくあたる暖かい室内に取り込むと、庭植えのものより一カ月ほど早く咲きます。



<チューリップの球根>